

四分野インゼミ研究報告会参加報告

第 19 期生 富江 克優・丸山 紗里奈

◆四分野インゼミ研究報告会とは？

四分野インゼミ研究報告会は、商学部を構成する四分野（経営、会計、商業、経済・産業）のゼミが、それぞれの研究成果を報告する場です。今年は、昨年と同様に岡本ゼミ、小野ゼミ、佐藤ゼミ、園田ゼミ、高橋ゼミ、高田ゼミ、山本ゼミ、横田ゼミの計 8 つのゼミが参加しました。新型コロナウイルスの感染を考慮してオンライン参加という選択肢もありましたが、対面でプレゼンをするという貴重な経験を積むべく、例年通りオフラインでの参加となりました。（富江）

◆プレゼン練習の様子

三田論の研究報告に関しては、10月の3ゼミ合同中間プレゼン会、11月のマケ論報告会で経験してきました。研究内容自体に大きな変更はないものの、10月と11月の研究報告会に比して発表時間が短かったため、研究の魅力を端的に伝えるためにはどうすべきか、第19期生全員で連日 ZOOM にて練習を重ねました。対面でゼミを行うことが可能となり、サブゼミや本ゼミの時間に第18期の先輩や大学院生、そして小野先生に何度もご指摘をいただきました。第19期生の中では完璧にできたと思うような発表であっても、目線や話し方、質疑応答に詰まったときの対応など多くの改善案をいただき、日々自分たちが成長する機会を与えていただけ大変有意義な活動でした。（富江）

◆プレゼン当日

8つのゼミの中で私たちの発表はトップバッターでした。当日は早く集合して練習しましたが、やはり全員緊張していました。三浦の聴衆を引き付ける爽やかな挨拶から私たちのプレゼンは始まりました。次のプレゼンターの山崎は、落ち着いた声色と安定したしゃべりでした。この2人が一気に会場の空気を掴んでくれたのを横で実感しました。3番目のプレゼンターの喜多村は、分かりにくい既存研究を明るく丁寧に紹介し、既存研究パートを引き継いだ



仮説 2 を解説する富江

鈴木も、熱意が伝わる話し方で聴衆を魅了しました。仮説パートは私と富江が担当しました。私は、アニメ視聴者の分類と仮説 1 を震えながらなんとか発表し、次の富江に繋げました。富江は、論文代表の名にふさわしい堂々とした態度で仮説 2 を説明していました。実験パートは、長谷川がいつも通り落ち着いて丁寧に解説し、最後に、神谷が 20 分という制限時間に追われながらも、それを一切感じさせない自信あふれる態度で発表を締めくくりました。質疑応答では、喜多村と鈴木が聴衆を唸らせるような説得力のあふれる回答をして、新鮮な意見を持つ他ゼミ生と活発なディスカッションを交わしました。最後に、佐藤先生から豊富な知見に基づいた鋭いご指摘をいただいて、私たちのプレゼンは終わりました。小野ゼミに入ってから成長を実感する、実りのある一日でした。(丸山)

◆プレゼン後記

小野先生、大学院生の方々、第 18 期の先輩方のお力添えいただいたおかげで、四分野インゼミを無事に終えることができました。私たちだけでは到底、プレゼンを成功させることは不可能でした。三田論の執筆だけでなく、論文の発表まで手厚くご指導いただき、本当にありがとうございました。最後に、半年間誰 1 人欠けることなく三田論執筆活動に注力し続けた第 19 期全員に感謝の意を示しつつ、第 19 期の四分野インゼミ研究報告会参加報告の結びとさせていただきます。(丸山)



四分野インゼミ終了後、写真を撮る小野先生と第 19 期生